

横浦島弁慶ヶ岳 (197m)



1/2.5 万
地形図

横浦港(鵜籠船)と弁慶ヶ岳



与一ヶ浦港から夢公園への登り口



急な尾根の登り



H24.9.23(日) 8名参加 (天草山岳会)

1号車-T、Y、N

2号車-YK、S、NT

3号車-M、MH

■9/23 晴 7:00 天草市役所出発, 7:15 下浦 1 名合流, 7:35 棚底港 2 名合流, 8:10 棚底港フェリー一出航, 8:31 与一ヶ浦港上陸, 8:35 出発, 8:57 夢公園(北小中学校跡), 9:03 登山口, 9:21 尾根に出る, 9:43 弁慶ヶ岳頂上(弁当), 10:30 下山開始, 10:50 登山口, 11:02 天満宮, 11:10 海岸道路, 11:40 御所浦北小学校運動会(不整合観察), 12:30 与一ヶ浦港, 12:55 貸切船くれない丸乗船, 13:10 棚底港, 13:37 本渡解散, 参加費 45km 1500 円(資料代, フェリー代, 貸切船, 写真代, 車代還元 1000 円)

■天草山岳会では「洋上の山の探検的登山」を一つの目標としている。今回は平家伝説の残る横浦島弁慶ヶ岳を計画した。早朝市役所を5名が車2台で出発する。下浦で1名合流し、棚底港で2名が合流して8名になる。フェリーに乗船して30分で与一ヶ浦港に上陸した。昨日からの雨が未明まで降り、少し湿気が残る。

各人自己紹介をして海岸道路を歩き始める。右に与一ヶ浦の古い船だまり、左側には住宅が建ち並ぶ。夢公園への登り口はすぐに分かった。住宅の間から山の鞍部が見えてコンクリート舗装された幅2メートルほどの道路が上へ伸びている。住宅が無くなると背の高い広葉樹林に変わり、土の道になりぬかるんで歩きにくい。道路のカーブのところに「弁慶ヶ岳」の標識があり古い踏み跡がある。道路沿いに歩くと門柱が建つ、山の上の学校と呼ばれた御所浦北小中学校跡地で昭和55年移転し、今は夢公園となっている。広場は上下二段あり、奥の高い所に貯水場がある。

夢公園からやや下りの道を進むと「弁慶ヶ岳」の標識があり急な尾根道が始まる。足元は濡れて滑りやすく、木々の葉には水滴が残り、蜘蛛の巣をはらいながら登る。

弁慶ヶ岳山頂



石碑(左),玉石(右上),弁慶の金玉岩(右下)



コモチベンケイソウ(ベンケイソウ科)



御所浦北小学校横の不整合観察



尾根から右側の山腹へ道が続いている。ズルズルの斜面をトラバースして南西尾根に出ると明瞭な踏み跡が続き、樹林の背丈が低くなると葉に残った雨露で服が濡れる。

朽ちかけた祠の裏手から山頂台地に登る。周囲は高い広葉樹林に囲まれて眺望はなく広場の南に石碑と三等三角点の標石が有り、中央に自然石が点在し二個の玉石が置いてある。おそらく海岸から運んだものだろう。祠は「三角点の記」によれば稲荷神社と書かれている。

横浦島の伝説として御所浦北小学校の皆さんの作品による「弁慶の島くらべ」がHPに紹介されている。要約すると『昔平家の落人を探しに横浦島まで弁慶と呼ばれる大男が来ました。ある日「横浦島と楠森島のどちらが大きいか」を比べるために横浦島と楠森島をかごに乗せて天秤棒で持ち上げようとしたのですが天秤棒は折れ弁慶はひっくり返り座り込んでしまった。その山を「弁慶ヶ岳」と呼ぶようになり、弁慶の座ったあたりの二つのくぼみのある岩を「弁慶のきん玉岩」と呼ぶようになった。』という物語です。もちろん後世の創作と考えられますが、弁慶の金玉岩は稲荷神社の裏に有りました。

記念写真を写し、弁当を食べて下山にはいる。下りはあっという間で横浦集落まで下る。天満宮にお参りして海岸道路に出ると大きな恵比寿様が祀られている。しかも家々の玄関には必ず恵比寿様が置かれている。

ベンケイソウを探していたがベンケイソウ科のコモチベンケイソウが鉢植えされていた。

島の北部海岸を歩いて御所浦北小学校に向かう。ちょうど運動会の最中で大変な賑わいだった。プールの背面の崖に不整合を観察する。残念ながら大半は草木に隠されていた。

帰りのフェリーまで時間があるので貸切船を呼んで棚底港に帰着する。新築されたフェリーターミナルで岩石標本を見て「天草御所浦ジオパーク」のパンフレットをもらい解散した。(N)